

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人友の会	代表者	大 瀧 泰 雅	法人・事業所の特徴	八戸市の中心街である長根公園の向かいにあり、自然が豊かであるため四季を感じながら過ごす事が出来ます。個々の意向に合わせて通いサービス、訪問サービス、宿泊サービスを柔軟に組み合わせ利用する事で在宅での生活が継続出来るよう支援しています。また、町内会への加入や地域行事への参加も積極的に行っています。
事業所名	小規模多機能ホーム 長根の森	管理者	武石 栄伸		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	高齢者支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	2 人	2 人	0 人	2 人	1 人	0 人	2 人	0 人	1 0 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	① 改善計画についてわかりやすい説明を行うとともに、どのような結果にしていけばいいかを、ある程度共有して実践していく事で、具体的な評価を出来る様にする。そのことで適切な事業所評価を高めていく。	具体的な評価を行い、事業所評価を高める事が出来たが、職員間で改善計画をうまく共有する事が出来なかった。	・各項目でのアップデートで、次につなげる姿勢がみられている。 ・このように時間つかい話し合いを行う事で、利用者のケアに影響がないのかが心配です。	改善計画を定期的な振り返りを行う事で、職員間の共有を図り、事業所評価に繋げていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	① 表情やしぐさなどからニーズをくみ取り、職員間で話し合い、サービスを提供し、再度検討する ② 利用者様の家族であったり、近所の情報をあつめ、把握している情報を日常的に生かせるように職員間で共有して柔軟な支援をしていく。	①会議などでカンファレンスを行い、職員全員で話しあい、必要としているケアの話し合いが出来ている。 ②利用者様の情報はご家族様などからあつめ、職員間で共有出来ているが、近所の情報までは把握できていない	・近所の情報では、最近は個人情報などの問題もあるので、すべて把握する必要はないのではなかと 思います。協力してくれている人だけでいいと思いました。	①短期目標を一覧にして常に職員が把握、認識できるようにして目標に対しての意識を高め、ケアに活かしていく。 ②引き続き、ニーズに対して柔軟に対応していく。また、地域資源を継続的に知り、利用者様へのサービス提供に活かしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	① 他の小規模多機能事業所の状況や介護保険情報を管理者より職員に向け都度発信し、職員会議で検討機会を設けることで、運営に関する意見を言いやすい環境づくりを行う。 ② ニーズに応じた支援の提供が出来るよう職員全体のスキル向上を目的に計画的に	①介護保険の最新情報については発信する事ができていたが、他事業所については確認できていない。会議時にグループを分けて話し合いができるようになり、全職員の発言機会を設ける事ができている。 ②ケアマネジャーを中心としたチームで、個々で知りえた情報はメルタスを活用して共有し、家族	・事業所を拠点とした地域活動は、暖かい時期にやっていただけると助かります。何かやるにしても移動が大変です。	①家族、地域住民向けの「介護(予防)教室」を定期開催し、利用者の在宅生活を支えていくとともに、地域の中に必要とされる事業所の役割を果たしていくことで、永続性ある運営を目指していく。

	研修への参加が出来る 体制作りを行う。引き続き本 人や家族とコミュニケーションを図る機会を作り、信頼 関係の構築に努める。	の負担軽減や家庭内での関係が 切れないような支援ができてい たが、家族と事業所間での情報共 有ではミスもみられた。研修は e-ラーニングで計画的に行う事 ができています。		
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	① 事業所の向上と各職員のス キルアップのために、研修で 習得した事を職員会議等で 意識共有を図りながら質の 高いサービスの提供に向け て活かしていく。 ② リスクマネジメントでは、原 因や周辺環境をしっかりと 分析し、具体的な改善策を意 見として出し合い利用者が 安心して生活が送れるケア を実施していく。	①内部研修に関しては、各職員で 確実に実施し意識共有を図る事 が出来ていたが、情報共有を目的 とした外部研修への参加は少な かった様に思う。 ②インシデントやアクシデント が発生した際には、速やかに状況 分析したうえで改善策を周知し 毎日のケアにつなげる事が出来 ていた。	・向上心を持って取り組んでいる と思います。皆さんが安心安全に 過ごせるように、無理ない範囲で 取り組みを続けてほしい。	現在の生活スタイルや生活環境 を整えながら、在宅生活が続けら れるように支援を行う。 地域資源も意識しながら、本人と の関わりがある方々との情報共 有ができるようにする。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	① 職員会議を活用し、事業所 における身体拘束や虐待、プ ライバシーに関する具体例を 挙げながら、意識共有を行 い、対応策についても話し合 うことが出来る。	身体拘束、虐待、プライバシーに 関してはすべての職員が内部研 修を実施。また、日々の業務の中 でも実践出来ているのか会議等 を通じて振り返る機会を確保し、 業務の改善に努めた。	・利用者の増減、職員の入れ替わ りなどの報告がありわかりやす い。 ・事業所が地域のためにできる事 を考えてくれていると思います。	職員の出入り、事故や苦情の対応 についての報告を行う。年度初め には事業計画を明確にして、透明 性ある運営を行いながら目標を達 成していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	① 事業継続計画について研修 などを通じて、職員への周 知を徹底し非常災害時等に 迅速な対応が出来るように する。 ② 継続的に地域の活動に参加 したり、地域と事業所が交流 できる機会を企画していく。	可能な限り業務調整し地域活動 に参加したり、事業所での行事の 際には、保育園や慰問者に来訪し て頂き、利用者様との交流を持て るようにした。 しかし、地域交流の拠点となるべ き活動が企画できず登録者以外 の地域住民が事業所を訪れるこ とがなかった。	BCP とかよく分からないけど、 災害や感染症が発生した時に、可 能な限り事業を続ける、再開を早 める考え方がよくわかりました。	BCP は都度見直しを行っていきま す。法人の対応方法に沿いながら、 休業が長期に及ばないように訓練 を実施していく。福祉避難所とし ての動きについても訓練を行う。

令和 7 年度
小規模多機能型居宅介護サービス評価

事業所自己評価一覧表

1. 参加人数： スタッフ 12 名（常勤 12 名 非常勤 名）
2. 個人アンケート配布：12 名（9 月 1 日）
3. 個人アンケート回収：12 名（9 月 20 日）
4. 職員会議の期間：令和 7 年 10 月 14 日～ 10 月 24 日（全 8 回）

◆実施事業所

社会福祉法人 友の会

小規模多機能ホーム 長根の森

（八戸市長根 1 丁目 2 - 8 友の会福祉会館内 3）

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7 年 10 月 15 日 (14 : 15～14 : 35)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 高野 漆戸 木村 竹ケ原

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	10		1	12 人

前回の改善計画	送迎時等事業所の様子などを少しでも話す事で、ご家族様との会話の機会を設け、不安感を解消していくことで、ニーズなどを知れるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	おおむね出来ているが、人によっては話をできない時もあった

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	5	7			12 人
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	3	9			12 人
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	9	1		12 人
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	7	4		12 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること 事前にフェイスシートやミーティングで情報は確認できている。 ご家族様や利用者様と話をするようにしている
---------------	---

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 細かい部分などは把握できない時があった ご家族様や利用者様と人によってはあまり話が出来ない時もあった
----------------	---

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
利用時や送迎時などは引き続き話をするようにし、本人様にとって必要なことを探していく。また、利用者様やご家族様のやり取りも含め、職員で共有する。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 7 年 10 月 18 日 (14 : 10 ~14 40)
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	赤澤 橘 橋本 滝野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	8	3		12 人

前回の改善計画	表情やしぐさなどからニーズをくみ取り、職員間で話し合い、サービスを提供し、再度検討する。
前回の改善計画に対する取組み結果	会議などでカンファレンスを行い、職員全員で話しあい、必要としているケアの話し合いが出来ている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	1	5	6		12 人
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	4	7		12 人
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	5	6		12 人
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		8	4		12 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
日々の利用者様とのコミュニケーションを通じ、気になることがあれば都度職員に確認したり、ミーティング等で検討し、支援に繋げている。 実施した内容をミーティング又は会議で振り返りを行っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
利用者様の目標や「～したい」が把握できていない。 利用者様の目標を把握できていなかったり、当面の目標を意識していないことが多かった。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
短期目標を一覧にして常に職員が把握、認識できるようにして目標に対しての意識を高め、ケアに活かしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和7年10月24日(14:15~14:30)
3. 日常生活の支援	メンバー 妻神・橘・橋本・滝野

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?		6	6		12人

前回の改善計画	情報共有は出来ているが、正しく核心に触れた受け止めが出来ているのか、知り得た情報から利用者様の本当の想いを汲み取り、安心した日常生活が送れるよう思いに沿った支援を行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	・知りえた情報は職員間で共有し、利用者様が安心して生活できる環境作りに向けての話し合いを行う事は出来ていたが、本心を汲み取り受け止める事が出来ていたのか判断が難しかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1	1	8	2	12人
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	2	10			12人
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		8	4		12人
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	9			12人
⑤ 共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	9	1		12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・利用者様の身体状況を把握し、変化に気づいた際には、速やかに職員間で情報共有出来ていた。必要であれば、ご家族への情報提供も行い、ご家族の意向や介護力もふまえながら、状況に応じて柔軟に支援内容を変更し、満足のいく支援に繋げる事が出来ていた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・コミュニケーションを図るうえで配慮すべき事も多く、利用者様とご家族との関係性にどこまで介入して良いのか、また、本人の思いを正しく汲み取り言語化出来ているのかの判断が難しかった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・ご家族や利用者様と良好なコミュニケーションを図りながら信頼関係を構築し、そこで知りえた「本人のやりたい事を引き出すポジティブな情報」を職員間で共有して話し合う事で、本人の思いに気づき満足のいく支援に繋げていく事を目指します。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和7年10月14日(14:10: ~14:45)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー 武石 木村 滝野 竹ヶ原

◆前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?		9	3		12人

前回の改善計画	ニーズに応じた支援の提供が出来るよう職員全体のスキル向上を目的に計画的に研修への参加が出来る体制作りを行う。引き続き本人や家族とコミュニケーションを図る機会を作り、信頼関係の構築に努める。
前回の改善計画に対する取り組み結果	ケアマネジャーを中心としたチームで、個々で知っていた情報はメルタスを活用して共有し、家族の負担軽減や家庭内での関係が切れぬような支援ができていたが、家族と事業所間での情報共有ではミスもみられた。研修はeラーニングで計画的に行う事ができている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係を理解していますか?		8	4		12人
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れぬように支援していますか?	1	7	3	1	12人
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		5	6	1	12人
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		3	6	3	12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
利用者に対する支援の中で、ケア会議で、担当者を中心として職員を小グループ化して話し合う機会を設けるようにした。全職員が一人ひとり意見を述べる事ができるようになったことで、以前の暮らしに近づける事を目標とした話し合いが出来ている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
事業所周辺や登録者の多い地域の町内役員や民生委員は把握して情報共有はできているが、かかわりの少ない地域では地域の関係性がどのようになっているのかの把握ができていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
地域での生活を支えるために、職員全体のコミュニケーション能力の向上を行う事で、家庭と事業所の生活の中での些細な情報でも共有できるように努める。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年10月20日（14：15～14：35）
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	高野 植村 漆戸 竹ケ原

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2	10			12人

前回の改善計画	利用者様の家族であったり、近所の情報をあつめ、把握している情報を日常的に生かせるように職員間で共有して柔軟な支援をしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	利用者様の情報はご家族様などからあつめ、職員間で共有出来ているが、近所の情報までは把握できていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	1	7	3	1	12人
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	7	4	1		12人
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか？	6	5	1		12人
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか？	5	6	1		12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること ニーズに合わせて柔軟に対応できている。本人様の状態に合わせて、「訪問」や「宿泊」での対応をしている 日々の関わりなどで本人様の変化は職員間で共有出来ている。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 地域資源が分からない。 利用者様が使っているかも把握できていない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 引き続き、ニーズに対して柔軟に対応していく。また、地域資源を継続的に知り、利用者様へのサービス提供に活かしていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年 10月 17日 (14:15~14:25)
6. 連携・協働	メンバー	沼畑、植村、橋本、塚原

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	8	2	1	12人

前回の改善計画	継続的に地域の活動に参加したり、地域と事業所が交流できる機会を企画していく。 事業継続計画について研修などを通じて、職員への周知を徹底し非常災害時等に迅速な対応が出来るようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	可能な限り業務調整し地域活動に参加したり、事業所での行事の際には、保育園や慰問者に来訪して頂き、利用者様との交流を持てるようにした。 しかし、地域交流の拠点となるべき活動が企画できず登録者以外の地域住民が事業所を訪れることがなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか?	2	3	3	4	12人
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	2	3	2	5	12人
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか?	1	7	1	3	12人
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	2	7	2	1	12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 行事では慰問等を通して地域の方々と交流したり(保育園、ボランティア)、防災訓練、AED 実習など定期的に行うことで、利用者の安全につながるように支援出来ている。 各関係機関とサービス担当者会議を通じて情報共有や今後の支援について協議している。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 管理者やケアマネ中心に各関係機関との連携、情報共有している為直接自分自身に関わることがない。 登録者以外の高齢者や子供などの地域住民が事業所を訪れることはない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
利用者様や家族様以外にも、事業所に来訪して頂けるよう雰囲気づくりや行事(イベント等)を企画する。 運営推進会議に管理者やケアマネ以外にも参加できるよう、業務の調整を図るとともに会議の内容については、会議等で情報共有したり、資料の回覧を継続的に実施する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	令和7年10月21日(14:10～14:30)
-----	-------------------------

7. 運営

メンバー	武石 赤澤 木村 濱田
------	-------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
⑥	前回の課題について取り組みましたか?	2	3	6	1	12人

前回の改善計画	他の小規模多機能事業所の状況や介護保険情報を管理者より職員に向け都度発信し、職員会議で検討機会を設けることで、運営に関する意見を言いやすい環境づくりを行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	介護保険の最新情報については発信する事ができていたが、他事業所については確認できていない。会議時にグループを分けて話し合いができるようになり、全職員の発言機会を設ける事ができている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?	1	6	3	2	12人
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	7		1	12人
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	3	6	1	2	12人
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?		9	1	2	12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
意見や苦情があった際は、速やかに情報共有して対応策を話し合い再発予防に努めることができている。また、地域活動も再開し、徐々に参加機会を増やすことができている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
職員により直接外部とかかわりを持つ機会が少ないため、事業所の重要性についての理解までたどり着く事ができていない。また、運営について理解する事ができていないため、意見を話すところまで至っていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
家族、地域住民向けの「介護(予防)教室」を定期開催し、利用者の在宅生活を支えていくとともに、地域の中に必要とされる事業所の役割を果たしていくことで、持続性ある運営を目指していく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和 7 年 10 月 22 日 (14:15～14:30)
8. 質を向上するための取組み	メンバー 妻神・赤澤・漆戸・竹ヶ原

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1	10	1		12 人

前回の改善計画	事業所の向上と各職員のスキルアップのために、研修で習得した事を職員会議等で意識共有を図りながら質の高いサービスの提供に向けて活かしていく。 リスクマネジメントでは、原因や周辺環境をしっかりと分析し、具体的な改善策を意見として出し合い利用者が安心して生活が送れるケアを実施していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	・内部研修に関しては、各職員で確実に実施し意識共有を図る事が出来ていたが、情報共有を目的とした外部研修への参加は少なかった様に思う。 ・インシデントやアクシデントが発生した際には、速やかに状況分析したうえで改善策を周知し毎日のケアにつなげる事が出来ていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	6	6			12 人
② 資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	7	2	2	12 人
③ 地域連絡会に参加していますか		2	3	7	12 人
④ リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	8	2		12 人

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・アクシデントやインシデントが発生した際は、速やかに周知し、発生原因や対策を情報共有して再発防止に努めている。また、利用様の安全確保や BCP 関連を含めたリスクマネジメントにも取り組んでいた。 ・地域連絡会や運営推進会議での必要な情報は、ミーティングや会議等で共有出来ている。 ・eラーニングや外部研修に参加し、自身に必要な知識や技術の習得、振り返りに努めた。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・地域連絡会は担当者が参加している。 ・BCP については机上訓練(資料回覧)が主であった為、実践訓練が出来ておらず、手順、役割等の確認が行えていない。 ・リスクマネジメントについて、原因と予防策を毎日のケアに継続して活かしていくという意識に欠けていた。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
・災害や感染症発生時の BCP について、施設の事情や職員の体制、地域資源等に応じて、随時マニュアルのアップデートを行いながら、実践訓練を実施し、職員全員への周知と発生時の確実な実行を目指します。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年10月17日(14:25~14:35)
9. 人権・プライバシー	メンバー	沼畑、植村、橋本、塚原

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5	7			12人

前回の改善計画	職員会議を活用し、事業所における身体拘束や虐待、プライバシーに関する具体例を挙げながら、意識共有を行い、対応策についても話し合うことが出来る。
前回の改善計画に対する取組み結果	身体拘束、虐待、プライバシーに関してはすべての職員が内部研修を実施。また、日々の業務の中でも実践出来ているのか会議等を通じて振り返る機会を確保し、業務の改善に努めた。 現在、成年後見制度について活用している方はいないが、利用の意向や必要性があった場合はその内容について情報提供できる体制づくりに努めた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	9	3			12人
②	虐待は行われていない	9	3			12人
③	プライバシーが守られている	3	8	1		12人
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3	4	3	2	12人
⑤	適正な個人情報の管理ができている	5	7			12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
身体拘束や虐待につながる事が内容、爪に意識しながら業務に取り組めた。 利用者様の対応に改善が必要と思われる場合も身体拘束や虐待に該当しないか等会議等を通じて職員間で話し合い、今後の支援を決めている。 リスクマネジメントを徹底し、本人の行動を制限せずに対応できるよう、業務改善をおこなったり、家族の協力を得ながら支援出来ている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
プライバシーは守られていると思うが、ふとした会話やミーティング等でその内容が利用者様に聞こえているのではないかとすることがあり、配慮が足りないのではないかと感じる。 成年後見制度への理解が足りていない。勉強不足を感じる。 利用者様の安全を守るためやむを得ないと感じてしまうことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
利用者様の人権、プライバシーを尊重した支援を更に徹底するため、会議開催時、ミーティング時等に介助時の声掛けや対応方法を職員間で都度再確認する。 身体拘束や虐待につながる行為を未然に防ぐため、事例を共有し、日常業務の中で意識的に見直しを行う。 成年後見制度の制度理解を深める研修を実施し、利用者様の意志を尊重した支援を継続していく。	